

宜野湾市総合戦略推進委員の評価・意見

①宜野湾市総合戦略数値目標の変更について

<p>【 総合戦略推進委員の評価・意見 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の変更について、了承。 ・本市のふるさとハローワークは、紹介業務のみを実施していると思うが、企業から直接求人申込みができれば利便性が高まると考える。
<p>【 市の見解・今後の取り組み 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度総合戦略推進委員会より、変更した数値目標にて、平成 29 年度実施事業について、効果検証を実施する。

【変更前】

	基本 目標	項目	H31 数値目標	変更理由
雇用分野	①	有効求人倍率	毎年度増加を目指す。	有効求人倍率は、ハローワークの管轄地域毎に公表されており、市町村毎の数値が公表されないことにより、効果検証が困難となったため。

【変更後】

	基本 目標	項目	H31 数値目標	設定理由
雇用分野	①	ふるさとハローワークを利用した市民の就職率	毎年度増加を目指す。	ふるさとハローワークが宜野湾市に設置されている特性を活かし、定量的に数値を把握することができ、効果検証が可能となるため。

②宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 28 年度実施事業について

【 総合戦略推進委員の評価・意見 】

○基本目標①について

- ・ 事業所内保育所について、宜野湾市においては、「保育士の子どもを預かるための保育所」ということで設置に向けて取り組んでいるものと理解する。当該保育所が開所することで、保育士の確保に繋がり、とても効果的な取り組みである。また、地域枠があるため、一般の子どもを預かることも可能となっている点は評価できる。
- ・ 保育現場においては、施設整備が進んでいる中、保育士確保が大変困難になっている状況であり、保育士が足りず、各園の子どもの受入枠を縮小せざるを得ない状況になることも想定される。
- ・ 施設整備や事業所内保育所を増加させることもいいが、他市も積極的に保育士確保に動いており、他市に流れている人材がいると思われるため、確保策について考える必要がある。
- ・ 目標値が多く、結果的に取り組みが薄巻きになって、小さな保育所の経営が難しくなる可能性もあり、事故やケガにつながる危険性もあるため、施設整備については慎重に進める必要がある。
- ・ ハローワークの相談者の就職数について、現在の雇用情勢では、達成しやすい目標値となっていないか。宜野湾市の中小企業数、求人数を踏まえどのくらい就職につながったのかを目標値にすることも考えていいのではないか。
- ・ 雇用創出、就業支援やハローワークの周知方法等について、市内金融機関との連携や手法等を検討する必要がある。
- ・ 就職率が向上しているなか、雇用の質が重要になっている。特に、正規、非正規の問題について、正規雇用が増えることで宜野湾市に住んで働くという安定した生活を送ることができる。可能であれば、一歩踏み込んだ形で正規非正規の数値についても目標値に設定できればいいと考える。

【 市の見解・今後の取り組み 】

- ・ 保育施設整備、保育士確保等について、評価・意見を踏まえ、課題解決に向け取り組みを行っていく。
- ・ 市内金融機関との連携やその手法、新たな目標値の設定について、検討を進めていく。

【 総合戦略推進委員の評価・意見 】

○基本目標②について

- ・ 基本的方向①地域資源を活かした観光交流の促進について、今後は国道 58 号線の浦添北道路開通ということで、環境が大きく変わってくることが想定される。浦添市、那覇市に出やすくなるデメリットもあり、危機感を持って西海岸のみならず多くのコンテンツを作っていく必要がある。
- ・ 駐車場確保の問題について、約 600 台分の駐車場が確保されているが、利用目的外の利用者が多い現状があると思われるため、駐車場運営に関する改善が必要である。具体的には、公園内駐車場の有料化が考えられる。
- ・ はごろも祭りについて、来場者数の増加により A 評価となっているが、集客手法等の検討を加えて取り組みを進めていただきたい。

【 市の見解・今後の取り組み 】

- ・ 駐車場確保について、評価・意見を踏まえ、担当部署にて関係機関等と連携し解決に向け取り組みを進めていく。

【 総合戦略推進委員の評価・意見 】

○基本目標③について

- ・ 待機児童ゼロについて、厳密にゼロになることは無い。短時間労働など、働き方の見直しが進められていけば保育園、幼稚園の需要が高まる状況になる。
- ・ 認可外施設の認可化を進めているが、これまで預けられていた認可外の子どもが施設に入れないミスマッチが生じている状況もあり、宜野湾市は、認可外施設が多いためこのような課題に向けての取り組みも必要ではないか。
- ・ 3歳児健診について、支援が必要な発達段階かどうか早期発見できる重要な事業になっていると考える。幼稚園、小学校の段階での支援員配置にも影響するので、100%を目指して取り組みを強化していただきたい。
- ・ 子どもの居場所づくりについて、まずは、普天間三区と我如古区の自治会をモデルとして取り組んでいるところだが、計画書の提出や要綱の要件等、取り組むにはハードルが高いものとなっている。野嵩一区自治会でも月に1回、食事の提供を行っており、他の自治会も学習支援や居場所づくりに取り組んでいる状況である。
- ・ 子どもの貧困対策支援としての取り組みを強化していただきたい。子どもの居場所づくりも市内2箇所で行なわれており、各地域での取り組みをスムーズに設置できるよう取り組んでいただきたい。(意見提言用紙より)

【 市の見解・今後の取り組み 】

- ・待機児童ゼロの目標値達成に向け、施設整備や運営支援、保育士確保対策等を継続して取り組んでいく。
- ・子どもの貧困対策について、今後も国、県交付金を活用し、子どもの貧困対策支援員の配置や子どもの居場所運営支援等に取り組んでいく。

【 総合戦略推進委員の評価・意見 】

○基本目標④について

- ・特に意見なし。

【 市の見解・今後の取り組み 】

- ・目標達成に向け引き続き取り組んでいく。